



普段のチカラ

仙台市地域防災リーダー（SBL）
 仙台市社会学級研究会会長 若生 彩

「3.11の時、あなたは何処で何をしていましたか？」2011年、名古屋から転入し荒町小PTAの健全育成委員長になった年に、東日本大震災が起きました。防犯だけでは子どもたちを守るための知識が足りない！と痛感した事が、防災を学び始めた原点です。現在は地域のSBLとして防災訓練や避難所運営に参画する傍ら、防災士として市民センターや学校等での防災講座なども行っています。

あの日から11年が経ちますが、その後も大きな余震が何度も起きています。地震はいつも突然です。家族と一緒に時に起こるとは限らないし、旅行中に土地勘の無いところで揺れるかもしれません。

世界のマグニチュード6.0以上の地震の約2割が起こっているとされる地震多発国である日本には、北海道から九州まで、わかっているだけでも約2,000もの活断層があります。（内閣府広報）近い将来の発生の切迫性が指摘されている大規模地震が複数あり、被害想定はどれも過酷なものです。地震はこれからも必ず起こります。だから普段から「備えておくのが当たり前」にしておくことがとても大事なのです。

地震が起き、大きく揺れ始めたら、落下物が無いか、周りの安全に配慮しながら「体を低く、頭を守り、動かない」こと。海や河口の近くにいたら、高い所に避難すること。道路は渋滞し、公共交通機関が止まるかもしれません。避難する時は家のブレーカーを落とすことも忘れずに。家族との連絡手段など、お子さんの成長に合わせて様々な状況を想定し、日頃から話し合っておいてください。冬は低体温対策、夏は熱中症対策等への配慮が必要です。小さなお子さんや高齢者は体温調節が難しいことも考え、非常持ち出し袋は、季節に合わせて用意しておきましょう。いちばん大切なのは命を守ること。みんなで助けたいと思うのです。

話は変わりますが、昨年からは仙台市社会学級研究会の会長をしています。社会学級は、仙台市内全ての小学校に開設され、校長先生が主事（大人の先生）となり、学区に住む成人なら誰でも参加することができます。詳しくは仙台市のホームページ「社会学級について」を検索してみてください。社会学級は小学校を拠点に活動しており、コロナ禍も小1サポーター、学習・消毒ボランティア等、子どもたちのサポーターとして活躍している人が多数います。社会学級生同士が地域を越え、世代を超えてフラットに出会える場を作るのが社会学級研究会で、昭和30年から続く歴史ある生涯学習団体です。118学区それぞれの地域の情報交換の場であり、多様な人が集まるからこそ得られる学び合いがあり、行けばいつも元気をもらっています。お近くの社会学級に、気軽に参加していただきたいと思います。

東日本大震災時にも、社会学級に参加していた人の多くが、避難所等でボランティア活動を行いました。日頃のつながりは、いざという時に心強いものですね。共に積み上げてきた経験と思いが「行動」の原動力になる。それは防災に限らず、より良い未来につながると信じています。

2022年春、先行きの見えない混迷の時代が続きますが、これからも子どもたちの成長を見守りながら、大人も大いに学びあい、情報を共有しあって、「普段から」備えていきましょう。

